



平成 24 年 11 月 29 日

## 苔由来天然成分に多剤耐性菌克服の可能性

### <概 要>

種々の抗生物質が効かなくなった多剤耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) は院内感染の主原因菌です。院内感染においては、高齢者や新生児では、治療が難渋し、重症化する例が多いことが知られていて問題となっています。臨床現場においては、有効な薬剤の開発が望まれております。今般、苔類に広く分布する、環状ビスビベンジル誘導体の中に、現在臨床現場で抗 MRSA 薬として汎用されているリネゾリド (商品名: ザイボックス) 並みに強力な抗菌活性を示す化学物質としてのリカルディン C を見出しました。現在は、さらに高活性を示す人工合成化合物への展開と、何故リカルディン C が抗 MRSA 活性を示すのか? を解明する研究を行っています。

### <本 文>

1. ゼニゴケ類から単離・構造決定されたリカルディン C に、臨床治療薬であるリネゾリド (ザイボックス) 並みの抗 MRSA 活性を見出しました。
2. リカルディン C 誘導体を化学合成し、抗 MRSA 活性を評価することにより、抗 MRSA 活性発現に必要な基本化学構造および、構造と活性の強さの関係を明らかに致しました。
3. 本研究は、文部科学省概算要求事業「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」研究の一環として実施しております。
4. 研究成果は Bioorganic And Medicinal Chemistry Letters 誌に発表し (doi:pil: S0960-894X(12)01342-X.)、また、日本国特許出願を行いました (特願 2012-224090)。

### <お問い合わせ先>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

有機医薬品開発学分野 教授

宮地 弘幸

(e-mail) miyachi@pharm.okayama-u.ac.jp

(電話番号) 086-251-7930